



千歳橋（ちとせばし）  
 明治以降の近代化の中、この地も市街化が進み、大正十一年に旧「千歳橋」が千歳堀にかき入れ、市電も通って重要な交通路を担っていた。当初は木橋であったが、昭和十五年には鉄の桁橋に架けかえられている。

戦後、大正区においても復興事業が進められ、大正内港が整備されるに伴って、この橋は昭和三十三年に撤去されたが、地域における交通の必要性は高く、架橋が待たれていた。

新たな橋の建設は、大正地区復興土地画整理事業の協力も得て進むこととなり、平成十五年に完成した。

この「千歳橋」は、規模や形こそ異なるが、旧「千歳橋」の役割を半世紀ぶりに復活したとも言える。

平成十五年四月

大阪市

